

# おれんげニュース

No253

キリマンジャロ遠征特集号

2011年4月号



3月2日(岩宇土山)空の青に木々の樹氷がまぶしく美しかった。

★集会・委員会・行事のお知らせ★		★4月から会合の曜日が水曜日です★		
	4月	5月	時間	場所
定期総会	2日(土)		10:00~15:00	西諫早公民館
運営委員会	13日(水)	11日(水)	19:30~22:00	
ひまわり集会	8日(金)	6日(金)	13:30~15:30	
全体集会	27日(水)	25日(水)	19:00~22:00	



まずは竹林の中を歩きます。



そして一座目。ガイドは國分さん。



まず腹ごしらえをして香春岳へ



岩登りをクリアして無事香春岳（三ノ岳）頂上へ。やったー！



川原氏しばし悩みのポーズ



香春岳（二ノ岳）頂上は楽～にのぼっちゃいました。（笑い！！）

↓みごとに削り取られた香春岳（一ノ岳）





部	ひまわり山行部	技術研修部	ひまわり山行部	山行部
月・日	4月1日(金)	4月9日(土)	4月22日(金)	4月29日(金)
山名(行事)	とけん山	経読岳(992m)	伊王島一周	釈迦ヶ岳(844m) 大日ヶ岳(829.8m)
地 図	雲仙	豊前		英彦山
集 合 時 間	諫早駅前 8:50 発 島鉄バス(乗り場 は県営バス)	JR 諫早駅 7:00 JR 西諫早駅 7:10	JR 諫早駅 8:45	JR 諫早駅 6:00 JR 西諫早駅 6:10
難 易 度	ゆっくり歩き	初心者	ゆっくり歩き	やや健脚
帰着時間	17:00	19:30	17:30	19:30
歩 行 時 間	1 時間	4.5 時間	2 時間	5 時間
交 通 手 段	バス	マイクロバス	JR&バス	マイクロバス
宿 泊 施 設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	小浜温泉	有り	伊王島温泉	有り
参 加 費	交通費のみ	5000 円	交通費のみ	5000 円
申 込 期 限		定員になり次第		定員になり次第
集 約	江崎	佐原	江崎	田中
備 考	お花見です	ツクシヤクナゲ早し	出来たての橋を歩 きます。	シヤクナゲ早し
感想文提出	4/10	4/15	4/29	5/10

### 技術研修部より

4月30日(土) セルフレスキュー (JR 西諫早駅9:30集合)

5月28日(土) セルフレスキュー (JR 西諫早駅9:30集合)

### キリマンジャロ遠征隊 無事帰国!! (2011. 2. 10~2. 21)

岩田リーダーの元6名のオレンジハイキングメンバーがアフリカの最高峰キリマンジャロに登頂しました。マランゲゲート(登山口)を過ぎるや雨と雹にたたられ、最後のハットからは(異例の)積雪に悩まされました。しかし、全員、無事帰国することが出来ました。  
(8ページから感想文)



5月



山行計画

部	技術研修部	ひまわり山行部	山行部
月・日	5月3日(火)・4日(水)	5月13日(金)	5月15日(日)
山名(行事)	石堂山(1547.4m) あまつみやま 天包山(1188.8m)	高岩山(881m)	釈迦ヶ岳(1229.5m) 御前岳(1209m)
地 図	石堂山	雲仙	豊後大野・十籠
集合時間	JR諫早駅 6:00 JR西諫早駅 6:10	島鉄バス 8:50(諫早駅発) 県営バスターミナルから乗車	JR諫早駅 6:00 JR西諫早駅 6:10
難易度	やや健脚	初心者	やや健脚
帰着時間	19:30	19:30	19:30
歩行時間	1日目(2時間) 2日目(5時間)	2時間位	5時間
交通手段	マイクロバス	バス	マイクロバス
宿泊施設	双子キャンプ村 コテージ	日帰り	日帰り
温泉	カリコポーズの 湯ゆたーと	有	有
参加費	15000円	交通費のみ	5000円
申込期限	定員になり次第		定員になり次第
集約	佐原	江崎	田中
備考	アケボノツツジ	宝原園地の ミヤマキリシマ	シャクナゲ
感想文提出	5/11	5/25	5/22

第2回 山の写真展終わる。 2月27日(日)~3月6日(日)

当クラブからの出品: 9人 13作



## 2月・3月の山行報告



2月25日（金）

### 岩屋山（475m）

- <参加者> 小山、江崎、森す、佐藤、田中ひ、中村か、林、佐原、松尾こ 計9名  
<行程> 諫早駅 7:57 J R 出発 ~ 長崎駅前バス 8:53（相川行き） ~ 9:10 上小江原下車 ~ 9:25 警察学校横登山口発 ~ 10:50 山頂 ~ 11:30（昼食） ~ 12:15 虹ヶ丘方向へ下山 ~ 13:30 岩屋神社付近散策 ~ 14:00 バス乗車 ~ J R長崎駅解散

#### <感想>

本日の岩屋山行は、近場でありながら行ったことが無いと言う方がいたので計画された。

しかし、当日は残念ながらその方は参加できなかった。

合併前の旧長崎市内では一番高い山だが、誰でも行ける山であり、時間的にもゆっくりできたし、気候も2月の下旬ということもあり、やっと暖かくなって、しかもこの日の天候も良かったので明後日（香春岳・牛斬山）山行の足慣らしに好都合でもある。



私にとっては久しぶりの森林浴が出来て気持ちが良い。

長崎の町はすり鉢状の形をしていると聞くが、山頂から見て理解出来たとの声があった。

狭い長崎の周り、山の上まで住宅が密集している事に、驚いている方も居る。

山頂には鶴の渡りを見ようと、大勢の方々がのんびりと待つて居られた。数日前に撮った鶴の姿の写真も見せて頂いた。また、保育園からピクニックに来て遊んでる子供達の姿や、殆んど毎日来ると言う女性も居られて、岩屋山が如何に市民に愛されているかあらためて知った。

下山は、山頂で逢ったK氏に「シルバーロード」と呼ばれる歩き易い道を教えて頂き、楽に歩いて良かった、と初ルートでの感想である。 （中村 記）

2月27日(日)

## 牛斬山 (580m)・香春岳 (511m)

<参加者> 川原、中須賀、国分、山下、田中(静)、森(寿)、下釜、田中(紘) 計8名  
<行程> 西諫早 7:10—金立 SA—小倉南 IC—日田英彦山線「採銅所」—牛斬登山口 10:00—牛斬山山頂 11:10—牛斬峠—五徳峠 12:40—三ノ岳 13:53—二ノ岳—下山—バスに到着 15:40—小倉南 IC—諫早 17:40

<感想> 本日の山のガイド(国分さん)を途中でピックアップして、第1目的地牛斬山登山口へ。その昔、この辺りでは銅が採掘され、宇佐八幡宮に奉納する神鏡を鑄造していたそうです。日田彦山線の「採銅所」という無人駅がある。10時登山口スタート。登り始めは太い孟宗竹の林、そのうち雑木林、さらに沢沿いの薄暗い杉林を、ただひたすら登る。前方が明るくなり、稜線に出る。まもなく牛斬山山頂、11時10分着。頂上からは次の目的地、香春岳の3つの峰が大きく見える。この山はセメントの原料である花崗岩から成る。一の岳は削られて低くなり、まるで真っ白なビルの屋上のように見える。山頂から緩く広い防火帯の稜線を下り、一旦車道に出る。



次の目的地三の岳に向かう。10分ほど登ったところで昼食・休憩。この先岩登りコースと迂回コースに分かれ、私達は岩登りコースをとる。ガイドブックには、岩場に慣れていないと無理と書いてあったので、一瞬心が揺らいだが、一緒に登ろうよというお誘いの言葉に、勇気を持って登り始める。しかし、こんなに直上する岩場は生まれて初めての経験。頭の中から雑念を追い出し、登ることに集中。三点確保を心掛け、両手両足をフルに使って必死で登り、1時間ちょっとかかって、ようやく無事頂上に辿り着く。この時の達成感は、何事にも換え難い。ヤッター！！ 帰路は迂回コースを下る。



さらに二の岳へ足をのぼす。あの岩場の印象が余りにも強烈で、二の岳には、ついでにちょっと登ったという感じ。バスまであと15分ほどのところで大粒の雨が降り出し、カッパを着る。3時40分全員バスまで到着。本日は温泉ショートカットで帰路に着く。

あの岩場と一緒に登ろうと背中を押して下さった方々に感謝。お転婆バーチャンの楽しい一日が無事終わりました。(田中紘子 記)

3月2日(水)

## 久連子 岩宇土山(1347m)

～早春の樹氷に驚き、福寿草に感動～

(参加者) 川原、山下、坂口、松尾(敏)、樋口(OG)、鎗水 (6名)

(行程) 6:00 西諫早～7:00 金立～9:00 松橋 IC～10:10/10:20 登山口～  
12:40/13:05 昼食～13:20 岩宇土山頂～13:50/14:30 福寿草の群落～  
15:20/15:30 登山口～16:40 松橋 IC～  
19:00/19:30 川登～20:00 西諫早

(感想) 久連子の登山口で車を降りたらチラチラと雪が舞っていた。見上げる峰々も白く樹氷に輝いている。早々に身支度をし、登山口とも見えぬ土手からいきなり急登。

石灰岩のガレ場や、枯葉の積る尾根道を踏みしめながら高度を上げて行く。樹氷に覆われた周囲の山々の美しさもますます際立ってくる。

1時間20分登った所で素朴な石仏に会う。120年前に山深き里の人々が山仕事の安全を祈って立てたのであろう。

岩宇土山は福寿草の山。石仏から15分登った所で最初の福寿草発見に歓声が上がる。更に15分で鍾乳洞に到着、そこから見上げる稜線には樹氷が広がる。いつの間にか我々は樹氷に囲まれていた、目指す岩宇土山やその先の上福根山も真白である。

日当たりの良い場所で、白い景色を堪能しながらの昼食。

15分で狭い尾根道の途中に突然山頂の標識が現れる。記念写真をパチリ、先を急ぐ。更に10分で上福根山の分岐、ここから左に急こう配を下る。下りはさほどガレ場はなく、木々に掴りながらであれば危険はない。

下る事20分で日当たりの良い広場に出る。そこから先には一面福寿草が群生しており、皆さん夢中でパチリ、パチリ。

平日の故か他の登山者にも会わず、思わぬ「早春の樹氷に驚き、福寿草に感動」を独り占めにした至福の山行であった。  
(鎗水 律夫 記)



天空より銀の風吹く  
樹氷林  
妖精の楽器となりし  
樹氷林  
(樋口ちよ)



## キリマンジャロ登頂をめざした 12 人の軌跡

2011 年 2 月 10 (木) ~2 月 21 日 (月)

(参加者) 岩田 福岡 川原 山下 松園 山崎 (元) / S さん・N さん (佐賀労山)  
Y 夫妻 (熊本市) Y 氏 (北九州市) M 氏 (A P の T R) 合計 12 名

2/10~2/11

(行 程) 諫早 I C 13:14→福岡空港→関西空港→ドバイ空港(現地)10:50→ダルエス  
サラーム→17:00 ニューアフリカホテル

(感想) 諫早 I C からオレンジの仲間や家族に見送られて九州号に乗り込む。大村 I C で岩田氏が乗車。福岡空港で佐賀労山の S・N の両姉と合流。国分さんが見送りに来ていた。

空港で参加メンバーを紹介される。アルパインのツアーリーダー M 氏を入れて総勢 12 名の参加者になった。顔見知りが多いせいか緊張感が全くない。

国分さんに別れを告げて搭乗ゲートに入る。空旅の始まりである。関西空港では時間がたっぷりあったので夫々に夕食を摂る。注文待ちの時間に両替に行くと、夜遅いためか両替所が少ない。早めにしておくべきであった。オレンジ女性陣は“ぼてじゅう”という店でお好み焼きを食べた。海外への渡航は手荷物検査や出国審査など色々と手順がうるさい。早めに搭乗ゲートに入る。エミレーツ航空は、最近サッカー選手の凱旋で良くテレビに登場する、赤いベレーから白いスカーフを垂らして胸元で廻した独特なスタイルの乗務員が笑顔で出迎えてくれた。JAL と提携しているので日本人スタッフもいる。飛行機は最新型で、さすがアラブ首長国連邦はお金持ちだと痛感する。



ドバイまでの飛行時間は約 11 時間、そろそろ体の限界を感じ出した頃やっと着いた。日本との時差は -5 時間である。乗り換え時間は 5 時間以上もある。中東のハブ空港だけあって、ともかくだだっ広い。人混みの多さにも圧倒される。トイレに行ったり免税店を物色したりしたが結局時間を持て余し、早々と搭乗ゲート前で待機する。11 時にドバイを発ってタンザニアのダルエスサラームに着いたのは 15 時半であった。

預けた荷物がなかなか出て来ない。湿気を含んだ熱気で身体は次第に汗ばんでくる。温度計は 34 度を指している。やっとこさ荷物を受け取って入国審査を受け、マイクロバスに乗り込んだ時にはどっと疲れが押し寄せてきた。人口 250 万のダルエスサラームは実質的な首都機能を果たしているようだ。中央分離帯がある 2 車線道路だが、道幅が広いので 3 列も 4 列も車が走っている。そのほとんどが日本の中古車である。渋滞で車が止まると物売りの兄ちゃんたちが窓越しに声をかけてくる。危ないことこの上ない。実際事故も多いとのこと。

国民の総所得は日本の 100 分の 1 という貧しい国である。木陰には仕事にあぶれ何をするでもない男性たちがそこかしこにたむろしている。路上の物売りも多い。川



原さんが「規模は違うがカトマンズに似ている」とつぶやいているのが聞こえた。ホテル着 17 時。諫早を発ってから 32 時間経っていた。(松園 記)

## 2/12～2/13

(行程) ダルエスサラーム空港～キリマンジャロ空港～アルーシャ国立公園サファリ～キリマンジャロ山麓のモメラ (モメラワイルドライフロッジ)

ロッジ～朝から少しサファリ見学～マランゲート(10:30)～マンダラハット(15:40)

(感想) 長い飛行機の旅はホテルで一泊して取れてしまった。アルーシャ国立公園は埃っぽくてやはり乾季なんだなと実感する。キリンもシマウマも雨を欲しがっているように見えた。



翌日は又朝からサファリを少し見学してこの時は前夜の雨のせいかわ埃がたたくキリンも棘のある木の新芽を美味しそうにむさぼっているのをまじかで見ることが出来た。

ここからこの車でマランゲートまで行き登山手続きをしポーターさんたちと顔あわせ。



広い車道からゲート (登山口) に入り樹林帯の中のゆるやかな道をポレポレ(現地語でゆっくり)で歩き始めた。

歩き始めて 1 時間もしないうちに小雨が大雨になり皆雨具を付ける。まだこのあたりでは悲想感はなくそのうち止むだろうと安易に考えていた。4 時間の行程を 5 時間かけてマンダラハットに到着。三角柱を横に置いたような左右にベットがふたつ。奥に上下と二つベットがあり、私は右横の下のベットに納まった。大きい荷物はポーターさんが運んでくれる。朝はモーニングティーを持ってきてくれる。優雅な山行であると思っていたこの頃までは・・・。(山下 記)

## 2/14～2/15

(行程) マンダラハット～ホロンボハット～翌日ホロンボハットからマウエンジ峰のゼブラロックまでトレッキング～ホロンボハット泊

(感想) 2 月 14 日 小雨の中マンダラハット (2727m) を AM8 時に出発。標高差 1000m までの距離ホロンボハット

(3720m) まで。マウンディクレーターへの分岐を過ぎると何度かまばらな林の中を通り何時間も歩かないうちに木がなくなってきた。標高 3000m 位越えた位には高地性の草原になってきた。登山道が延々と続いているのが見渡せる。やっぱり外国に来たんだなと思う。その位から雨



から霰と変わる。少し寒く感じる。アフリカが寒いとは考えてもいなかった。この先の天気を心配しながらポレポレと思いつながら登って行く。なだらかな丘を越えても越えても同じような景色が続いていてとても3000mの高さにいるとは思えなかった。ホロンボハットにPM3:30に到着。少しゆっくりしてから楽しみの夕食。お腹も空いているので美味しい。今夜は6人部屋。明日まではホロンボハットで過ごすので荷物もそのままが良いので気が楽でした。さすがに良く眠れて体調が良かった。15日は高所順応の為ホロンボハットに滞在。二時間程トレッキング。ゼブラロック(3900m)まで。富士山の高さを越えているけど参加者全員体調は良いみたい。このまま頂上まで行けたら良いのになと祈っていました。この山行に参加出来て本当に良かったです。企画して下さいました岩田さんをはじめ川原さん。福岡さん。松園さん。山下さん。本当にありがとうございました。キリマンジャロ登頂出来て嬉しかったです。(山崎 記)



## 2/16～2/17

(行程) ホロンボハット～キボハット～17日0時キボハット発登頂～ギルマンズポイント(5682m)着8時50分～ウフルピーク(5896m)11時5分着

(感想) 遠征最大のドラマは16日深夜より17日にかけてであった。

登山は13日より始まる。この日、入山。マラングゲートを出発して、まず樹林帯を4時間歩いて第一キャンプ地マンダラハット(2727m)へ。

14日、ゆるやかな草原地帯をゆっくり歩き6時間で第二キャンプ地ホロンボハット(3720m)へ。

15日は高度順応の為にここに滞在しゼブラロックへのハイキング。

16日、緩やかに高度を上げる砂礫帯を6時間歩いて、最終キャンプ地キボハット(4703m)へ。13日から16日夕刻までは物見遊山といえなくもない山旅であった。最大のドラマはこの日(16日)、仮眠の後から始まる。午後11時に起きて0時に出発。月と星の輝く中を山頂を目指す。山肌は急激にせり上がっていく。空気も薄くなっていく。急坂の雪道は脚力を浪費させられる。壮絶な自分との闘いである。

力尽きて登頂を断念して下って行く人が、一人二人と増えていった。山頂の辺りに目をやれば、ヘッドランプの灯が点々と上へと蠢いている。

ガイドが出発前に言っていた「6時間を」過ぎた頃、夜は明けギルマンズポイント(5682m)に着いた。その後1時間半かけてキリマンジャロの最高点ウフルピーク(5896m)へ。心肺機能の衰えは感じなかったが、私の脚力は限界に達していた。

参加した人皆、この苦しい登山に耐えてくれたものだと思う。「キリマンジャロゆったり」登山とは言っても、登頂にかかる日数は13日から16日までの4日間の順応で山頂を目指すことと云うことであり、登頂成功への時間の幅はあまり広くはない。後、1日2日日数の余裕があれば、登頂率はもっと上がるだろう。(川原 記)

## 2/18～2/19

(行程) ホロンボハット～マラングゲート～アルーシャ(1泊滞在)～タランギレ国

## 立公園

(感想) 朝6時、ドアのノックで目が覚める。ポーターがモーニングティーと熱いお湯を洗面器に入れて、持って来てくれる。なんとなく幸せな気分になる。

外は晴れ。リュックを整理して山で最後の朝食を食べに部屋(ハット)をでる。外には大勢の登山者がいる。なかには日本人の登山者もいる。



8時出発。キリマンジャロを背景に全員で記念撮影。昨日より一層雪をかぶったキリマンジャロ山頂(5151m)のノコギリのような頂上が見える。後ろからポーター達が頭と背中に荷物をかっついて私たちを追い越して行く。力強い!。少し行くと大雨になり慌てて雨具を着ける。



あっという間に道が川に変わる。ようやくマンダラハット(2727m)着。ここで昼食を摂る。カッパの防水がきかず上半身が濡れて寒かった。

樹林の中を歩きマランゲゲート(1800m)着。3時。雨は止んでいた。登山ガイドやポーターとはここでお別れ。彼らがキリマンジャロの歌を歌って我々の登山を称えてくれた。そしてボスから登頂証明書を手渡しでもらって握手をして別れた。

さて、ここからは来た時と同じ専用車でアルーシャの町へ。5時半頃ホテルへ着いておしぼりとジュースを貰う。5日ぶりにお風呂に入れると思ったが部屋のお湯がでない。仕方なく水で頭と身体を洗う。夕食は登山も終り気分が良い。山の話で盛り上がる。ビールも食事も美味しい。登頂できて良かった。人生最大の思い出になる。計画してくれた岩田さんに感謝。



19日は朝から晴れだった。今日はタランギレ国立公園のサファリをドライブする予定。朝から専用車でホテルを出発。道路の横では食料品や日用品を並べて売っている。街をぬけ広い大地の続く道路を車は100キロのスピードで走る。両側にマサイ族



の家や沢山の牛を連れたマサイ族の人を見る。2時間で公園に着く。サルが出迎えてくれる。受け付けを済ませサファリドライブの始まり。テレビで見ることあるが自分の目で見れるとは夢のようでわくわくする。野生のゾウ、キリン、シマウマ、インパラ、イボイノシシに興奮する。バオバブの巨木もたくさんあった。

昼食はサファリの中のレストラン。ここは宿泊施設、プールもあり、トランクを持った子供連れの白人がいっぱい入って来た。宿泊するのだろう。レストランの庭から

コーヒーを飲みながら公園を眺める。遠くの遠くまで広い。先が見えないほどである。川にゾウの群れが見える。なんと感動的な景色だろう。うっとりする。楽しいサファリドライブだった。

アリューシャの町に帰る途中、マサイ族の村を見学する。(一人20ドル負担)女性の踊りを見せて貰う。おしゃれである。大きなイヤリング。白玉のネックレス。白くひだの取ってあるリング状の着け襟のような物で首の回りを被っている。晴れの服装のようだ。子供達も目がくりくりして可愛い。家の壁は小枝で囲い牛の糞で固めてある。中は昼でも暗い。世界にはこうゆう生活をしている人もいるものだと肌で感じた。全て日本が良いとは言わないが日本は良い国だと思う。

5時半、アリューシャのホテル着。汗をかいたので風呂に入る。今日はお湯が出てくれたので9日ぶりに頭と身体を湯で洗い、垢と疲れを取る事が出来た。夕食のビール、食べ物が旨い。アフリカの最後の夜を楽しむ。明日も朝が早い。おやすみなさい。

(福岡 記)

## 2/20~2/21

(行程)アリューシャーキリマンジャロ空港—ダルエスサラーム—ドバイ—大阪—関空—福岡

(感想)2011年2月20日、登山も観光も終えて今日から帰途につく。それにしても昨夜は泊っているホテルで、ハーレーダビットソンの愛好者の大会が開かれ、明け方まで鳴り物入りの大騒ぎであった。朝、5時半、用意されたパンやジュースの簡単な朝食を食堂の片隅で戴いてホテルを後にした。

明けやらぬ闇夜の国道を、キリマンジャ



ロ空港へ向かう。時々、速度抑止の為に付けられた道路の段差を乗り越える度に車は大きく跳ね上がる。

7時30分発のプロペラ機は、1時間遅れとなっていた。その程度の遅れは当たり前だろう。1時間20分でダルエスサラームへ。ここはタンザニアを代表する大都会である。

旅行会社の現地エージェントの方が出迎えてくれた。橋本さんという若い女性だった。

ここから夕方ドバイ行きの飛行機に乗るまでの間彼女が手配してくれたバスでしばし観光することが出来た。最初に訪れたのはエドワード・サイディ・ティンガ・ティンガが生み出したポップアートの工房だった。アフリカの風俗を描いた絵が多くて見ていて楽しかった。

昼食はインド洋を眺めながら海鮮レストランへ。沖合には獰猛な人喰いザメが群れをなして泳いでいると言うこの海も、遠浅の浜辺は穏やかな様相を呈していた。久しぶりに磯の香を懐かしんだ。

夕刻のダルエスサラーム空港は混雑していた。リビアやイラクの時局の影響で所持品や身体チェックが厳しい。フィルムや物入れは全て出してみる。6時間の空の旅で、日付の変わる前にドバイに着き、朝、3時又、関空までのフライトとなる。往路11

時間かかったのが帰路は偏西風に乗って8時間の旅である。長い飛行時間はキリマンジャロ峰登山の回想にはちょうど良かった。キリマンジャロは氷河の有る巨大な峰であり、タンザニアは限りなく広い草原の国であった。苦しくても旅はいいものである。もう来ないかも知れないアフリカ。さらばアフリカよ。 (川原 記)



マランゲートを歩きはじめたら雨に。



プロテア・キリマンジャリカ



アリュージャのキリンとシマウマ



キボハットへむかうと積雪の道に。



月とマウエンジ峰の雪



キボハットに向かう道も雪で悪路となった。



ウフルピークに到着！ 1！



ウフルピークに到着！！！！



2月17日 キリマンジャロにて。空の青、雲、氷河、そしてウフルピークの積雪。



ドバイの空港にてお土産物色中



マラングゲートにて今から入山です。

おれんじニュースNo253	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2011.3.22
財政担当	
郵便振替講座	
ホームページ	<a href="http://orangehikingclub.web.fc2.com/">http://orangehikingclub.web.fc2.com/</a>



タランギレ国立公園の  
サファリにてゾウの移動。